

(2) 日本一の^{くろだいず}黒大豆づくりをめざして

日本では全国的に米が生産されていますが、人々の食生活の変化により米の消費が少なくなり、昭和40年代後半から日本全体で米があまりはじめました。そのため米をつくりすぎないようにする「生産調整」^{ちようせい}が行われ、岡山県でも田で米以外の作物がつくられるようになりました。そして岡山県北東部を始まりとして、「丹波黒」^{たんばぐろ}という品種の黒大豆が県内各地でつくられるようになりました。

黒大豆はふつうの大豆と同じように、6月に苗を植え、11月に収かくをします。ふつうの大豆と比べて大きく、味がこくておいしいと人気があります。しかし、土づくりや水の管理・病虫害などに気をつけないと、小粒になってしまうので、育てるのが大変です。



農薬をまくラジコンヘリコプター

そこで、ラジコンヘリコプターで農薬をまいたり、収穫した豆を乾燥させ大ききごとに分ける作業をJAでまとめて機械ですたりするなど、作業時間が短くなる工夫をしています。また、よりよい黒大豆ができるよう、農家が集まって栽培方法の研究もしています。



被害豆の除去作業

こうして育てられた黒大豆は「お^{しゅつか}かやま黒豆」という名前^{しゅつか}で出荷され、有名な産地である^{ひょうご}兵庫県^{たんば}丹波・^{ささやま}篠山地方をこえる面積で、日本の代表的な生産地となっています。